



副代表幹事
人財育成・活用委員会 委員長
橘・フクシマ・咲江
G&S Global Advisors Inc.
取締役社長

Contents

■特集	
震災復興の現場から —宮城編	02
■Close-up提言	
政治・行政改革委員会 報告書 永山 治 委員長	15
日本の政治改革を「政党の在り方」 から問い直し、政党法の制定を	
■Doyukai Report	
第3回「One Company, One Athlete」 「トップ・アスリートのための 支援・雇用に向けた企業説明会」	17
■Seminar	
第1216回 会員セミナー 「横浜市の待機児童ゼロへの取り組み」 林 文子 氏 横浜市 市長	21
第124回 TCERセミナー 「生産性の源泉」 大橋 弘 氏 東京大学大学院経済学研究科 教授	22
■Column	
巻頭言 橘・フクシマ・咲江 「男女による『共育』を可能にする両立支援へ」	01
リレートーク 北澤 晴樹 「2013 USオープンゴルフ 松山英樹選手の快挙」	23
TOKYO2020 夢の力 荻原 健司 氏 「日本選手の活躍なくして、効果なし」	25
私の思い出写真館 宮本 彰 「初めてテブラが売れた瞬間」	26
新入会員紹介	24

「男女による『共育』を可能にする両立支援へ」

私には、30代の甥おいが二人いる。二人とも、一昨年父親となり、夫婦共働きで頑張っている。毎年元旦に、母のいる実家で兄夫婦、甥の家族と集まるのだが、その新年会で、甥二人が実にまめに赤ん坊の世話をするので驚いた。それも、自主的に自然体で、実に楽しそうに面倒を見ている。その「育メン」ぶりを見ていて、男性にも育児を楽しむ「権利」、「育児権」があると考えられるようになった。「お手伝い」ではなく、男性にも主体的に育児をする「権利」があり、育児は男女共に担う「共育」であるべきとの考え方である。少子化対策には、こうしたマインドセットの切り替えが不可欠だと考えている。

その理由は三つある。まず、男性自身が「育児」に主体的に参画したいと考えていることである。2003年の男性の育児参加に関する厚生労働省調査では、「育児を仕事より優先したい」という「希望」を持つ未就学児の父親の割合が7割を超えている。今から10年前でさえ、次世代を育てるという重要な役割を、男性も担いたいと考えていたことが分かる。しかし、同統計では、「現実」には7割が仕事を優先している。そして、育児休暇取得率が改善しない理由の一番は、どの統計でも「職場の環境から取りにくい」である。その結果、男性の育児休暇取得率は、今年の経済同友会の調査でも3.5%と低く、制度はあるものの「仏作って魂入れず」の状態である。

次に、真の「男女共同参画」とは、女性が「過去に男性の役割とされていた領域」に参画するだけでなく、「女性の領域」に男性が参画することでもある、という点である。安倍政権の成長戦略の「女性の仕事と育児の両立支援」の項目でも、原案の段階では「男性の育児“参加”」という言葉があり、「育児は女性の役割」との前提であったが、最終案では「参加」が「参画」になった。オランダでは、職場でのワーク・シェアリングが可能なおかげで、男女が同等に育児を担っている。この制度が生産性向上に役立ち、オランダの経済回復の一因となっている。

最後に、真の男女共同参画によって「共育」が実現すれば、ライフ・ステージによって男女共に働き方を変えることで、仕事も家庭も充実させる人生の「ワーク・ライフ・マネジメント」も可能になることを提案したい。企業も「女性の両立支援」から、男女共に子育てを担う「共育」支援にマインドセットを変更し、男女共に「働き過ぎ」の労働慣行を改め、多様な働き方を取り入れることで生産性向上を図るワーク・ライフ・マネジメントを目指す時期が来ているのではなかろうか。

今月の表紙：世界の文様シリーズ

【日本／牡丹文様】

ジャパンプレーといわれる藍染めに使われる牡丹文様です。とても涼しげで浴衣などによく合います。牡丹文様は中国から奈良時代に伝えられ、美しい人のたとえにも使われました。